



～群馬で暮らし、群馬で農業始めませんか！～ 「ぐんま就農相談会」で群馬県農業の魅力をPR！

ぐんま就農相談会

- 期日：1月20日(土)
- 場所：東京交通会館8階 ふるさと回帰支援センター セミナースペースA
- 主催：群馬県 農政部 農業構造政策課
- 協力：群馬県 企画部 地域政策課、各農業事務所
- 内容：群馬県への就農や移住のセミナー及び相談会

■ 都内では県主催として初の就農相談会！

都内では初となる県主催の「ぐんま就農相談会」が県内6市町村が参加し開催されました。参加市町村は「就農+移住」に力を入れている前橋市、高崎市、上野村、中之条町、沼田市、明和町で各市町村の農業・就農・暮らしなどの魅力を紹介しました。

当日は、各市町村と群馬県新規就農相談センター（新規就農相談）・ぐんま暮らし支援センター（本県への移住相談）からパワーポイントや配付資料等を使って5分程度のセミナーを行い、その後それぞれ各ブースに分かれて個別に相談会が開催されました。セミナーには8名の参加があり、相談会は12名の参加、延べ31件の個別相談が行われました。参加者は東京都を中心に、愛知県、神奈川県、埼玉県、群馬県出身者で、年齢は20～40代でした。

■ 6市町村の農業や暮らしの魅力をPR！

群馬県は、首都圏の水瓶の利根川水系を含む豊富な水資源、標高10～1,400mに広がる耕地で1年を通じて多彩な野菜・果物・穀物が作付けられていることや大消費地の東京から100km圏の好アクセスにより需要・市場・可能性も大きい等の利点を紹介していました。

各市町村から、前橋市は、算出額が全国市町村中第12位で「露地なす+ちぢみほうれんそう」の新規就農者が増えていること、高崎市（くらぶち草の会）は生産者40名中半数が県内外からの新規参入者で新規就農者研修の受け入れ体制が整っていること、上野村は移住者が全人口の2割を占める全国的にも非常に高い移住率で新規就農者はいちごやしいたけの栽培や農家カフェに取り組んでいること、中之条町は標高差を活かして米、りんご、いちごなど多品目の生産が可能でジュースや乾燥芋、漬け物など6次産業化にも取り組んでいること、沼田市は山間地の立地条件を活かした高冷地野菜（レタスやトマト等）や水稻、りんご・ぶどう等の観光農園等があり新規就農者には雨除けトマトをお勧めしていること、明和町は施設きゅうり、なし、シクラメン等の栽培が盛んで半数が明和町外出身者の若手梨生産団体「梨人（なしんちゅ）」では梨の生産と加工品の開発に取り組んでいることが紹介されました。



群馬県農業の特徴をPR



明和町と地域おこし協力隊の取組をPR



個別相談会の様子（左：新規就農相談センターブース、右：前橋市・高崎市・上野村ブース）